

国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

マクロコズム



2006.7 VOL.71

Contents

- 平成17年度「青少年国際理解セミナー」 2
- (財)青少年国際交流推進センター
理事長あいさつ 6
- 内閣府青年国際交流事業報告会 7
- 第11回SWYAAインターナショナル・
リュニオン 8
- 「世界青年の船」事業
既参加青年東京連絡会議 10
- SSEAYP International
General Assembly (SIGA) 12
- 日韓指導者交流 14
- 「ターニングポイント」 16

(財)青少年国際交流推進センター

人口減少社会を生きるあなたへ～「ミレニアム開発目標」と日本



本日、青少年国際理解セミナーでお話させていただくにあたり、人口問題が持つ様々な側面を見ていきたいと思います。今年2月に世界人口が65億人になったというお話が先ほどのご挨拶の中でもありましたが、これは、アメリカ商務省の国勢調査局が出したものです。実は、国連の統計では昨年、既に65億人に達していました。

こうした違いが生じるのは、集計の方法が異なるためです。国連人口部は、各国政府が出してくる報告をそのまま人口推計という形でまとめます。一方、アメリカの国勢調査局は、いくつかの国で小規模の人口調査をし、調査から推計をして、その国の人口がどのくらいかを割り出しているのです。

人口の増減とは、出生数と死亡数の差です。昨年日本の人口は2万人減少しました。出生数と死亡数の差が2万人になったということです。出生よりも死亡が増えたため、初めて減少に転じました。出生が多く、死亡も多いと人口はそれほど増えません。もし、アフリカでたくさん子どもが生まれても、HIV/エイズで亡くなる人が多ければ、

人口は増加しません。

「人口ボーナス」と「人口オーナス」

人口増のメリットとデメリットを考えてみましょう。デメリットは、環境に対する負荷が大きい。食料が必要な人のところに届かない可能性が大きくなる。国全体の経済開発が進み、全体の「パイ」が大きくなっても、一人当たりの割当が減る。メリットは、労働力や消費人口が増え、物を作れば売れる状況になることです。

皆さんは「人口ボーナス」という言葉を聞いたことがありますか。文明が発展するにつれ、たくさん子どもが生まれるものの、たくさん死んでしまう多産多死の社会から、多産少子になり、少産少死の社会へと変化していきます。この多産少死の時期を「人口ボーナス」といいます。子どもが大勢生まれて、労働人口と定義されている15歳～64歳の人口が増えます。働いている人たちがたくさんいて、扶養しなければならぬ人たちが少ない状態ですから、経済がどんどん活性化していきます。

日本にも「人口ボーナス」がありました。戦後、たくさん子どもが生まれた「団塊の世代」の方々は、生産人口として中心的な役割を果たし、経済活動の活性化を促してきました。「人口ボーナス」は経済活動が活発化するためのチャンスですが、多産多死から少産少死へと人口転換が起きるときに、一度だけ生じます。開発を進められるかは、このチャンスを使えるかどうかにかかっています。

一方、人口が減る場合のデメリットは、労働力が減ることです。「人口オーナス」

国連人口基金東京事務所所長
池上清子氏講演録(2006年3月21日)

といわれる現象です。「オーナス」とは「ボーナス」の反対の意味のラテン語で、人口が経済発展にとって重荷になる状態のことをいいます。15歳から64歳の生産年齢人口が減って、高齢人口が増える状況で、こうした変化が急激に生じる場合、社会的に大きな問題となります。

希望する子どもの数

世界人口はいまだに増え続けていて、去年のデータと比べると約7,600万人増え、このうち96%は開発途上国で増えると言われています。

私は50か国以上の開発途上国を調査で訪れていますが、いつも最初に行くのは市場です。市場に行くと、市民生活が一目瞭然だからです。私はどの国に行っても「子どもは何人欲しいですか」と訊いてみます。すると、途上国でも先進国でも「3人くらい欲しい」という答えがほとんどなのです。

希望する子どもの数を国別に集計した統計があります。日本では2.56人が希望なのですが、実際は1.29(2004年)人しか産んでいない、もしくは産めていません。開発途上国はその逆で、欲しいと思う人数よりもたくさん産んでいる。つまり、現在、先進国でも途上国でも希望する数の子どもを産むことができていません。

「貧しさ」の定義

LDC(後開発途上国)と呼ばれる開発が遅れている貧しい国では、これから人口が3倍にも増える国があります。「貧しい」とはどのような状態のことでしょうか。世界銀行は1日1ドル以下で暮らす人々を貧困人口と定義しています。「1日1ドル」と

いう基準が定められたのは1990年でした。1日に必要な食糧と生活必需品を入手するためにかかる最低基準が1ドルだったのです。

1981年から2001年の20年間で、1日1ドル以下で生活する人の数は、世界では減少しましたが、サハラ以南のアフリカではかなり増えています。1981年には1億6400万人でしたが、2001年には3億人を超えました。

「リプロダクティブ・ヘルス」と

「リプロダクティブ・ライツ」

1994年、皆さんにぜひ覚えていただきたい言葉が世界的な文書に載りました。それは、「リプロダクティブ・ヘルス」「リプロダクティブ・ライツ」です。人口について考えるとき、数の問題だけでなく、一人ひとりが、子どもを本当に産みたい、生まれたら大切に育てたいという気持ちを言葉に表し、一人ひとり、またカップルの一生涯にわたる生殖に関する健康を考えるのが「リプロダクティブ・ヘルス」です。「リプロダクティブ・ライツ」とは、普遍的な人権の一部を構成する権利のひとつです。

「ミレニアム開発目標」

国連には2つの大きな仕事があります。1つは平和の構築。もう1つは開発を進め

ること。開発とは、先ほど申し上げた1日1ドル以下で暮らすような人たちを減らし、格差、貧富の差をなくそうという活動で、その大きな枠組みが「ミレニアム開発目標」です。私はいつも反省しているのですが、ミレニアム開発目標がまだ日本では定着していません。おそらく、日本に関係があるのは7番目と8番目の目標だけだからかもしれません。

目標1は、1日1ドル以下で暮らしている人口を2015年までに半分にすること。目標2は、誰もが初等教育を受けられるようにすること。目標3は、ジェンダーの平等を進めること。日々、水を汲み、薪を拾い、家族の健康を考えているのは母親なのですが、これまで開発に関して、女性の意見が取り入れられることはなかなかありませんでした。人口の半分は男性で、半分は女性なので、女性の社会的地位や能力の向上なしには開発は進みません。男性を軽視しているわけではなく、開発途上国の女性の地位を男性と同じレベルにまで引き上げようという目標です。目標の4は、乳幼児死亡率を下げることです。

母親の識字率と子どもの死亡率

私が立ち会ったある調査では、地域の母親を2つのグループに分けました。1つ目のグループの母親は教育を受けたことがありません。2つ目のグループの母親は少しは小学校に通ったことがあります。両方のグループのお母さんに子どもがどのくらい亡くなっているのか訊いてみました。子どもを何人産んでいるかにもよりますが、出産間隔をあけずに子どもを産むと、母体に負担がかかって未熟児が生まれやすく、赤ちゃんが死亡しやすいこともあります。しかし、こうした点を考慮しても、

お母さんがたとえ1年か2年でも小学校に行ったことがあり、多少でも読み書きができると、子どもの生存率が2倍高いのです。

開発途上国で子どもが死亡する最大の原因は、下痢による脱水症です。脱水症の赤ちゃんに普通の安全な水を飲ませても、体を素通りしてしまって体内に水が残りません。多少とも学校に行ったことがあり、文字が読め、情報へのアクセスがあるお母さんは、ORT(Oral-Rehydration Therapy)経口補水療法を知っています。経口補水療法とは、安全な水にほんのひとつまみの塩か砂糖を入れた水を子どもに飲ませることです。ほんの少しの塩や砂糖が入っているだけで、赤ちゃんはその水を体の中に取り込むことができます。このことをお母さんが知っているかどうかで子どもの生存率が全く違ってくるのです。

具体的な数値を伴う目標

ミレニアム開発目標では、2015年までに達成しようという具体的な数値が決まっています。目標5の妊産婦の健康では、妊産婦死亡率を指標とし、この割合を4分の3減らすのが目標です。4分の3の元になる数字は、1990年のその国のデータです。例えばアフリカのA国の妊産婦死亡率が120だったとすると、2015年までには30になっていなければなりません。

国連機関はさまざまな活動をするために皆さんの税金をいただいています。これまでは、私たちの努力を具体的に数値化して示すことはありませんでしたが、90年代の半ばから、人や物、お金が投入されるなら、きちんと成果を出す必要があるのではないかと問われるようになりました。



◀ カメルーン首都ヤウンデ郊外の小学校にて

4 平成17年度「青少年国際理解セミナー」



例えば、死亡率やHIVの感染率を下げるなど、目に見えてわかるような援助をしていかなければなりません。

目標6はエイズとマラリア、その他寄生虫や結核に関するものです。

日本と直接関係があるのは目標7の環境保全に関する分野と目標8です。目標8は「開発のためのグローバル・パートナーシップの推進」ですが、私たち一人ひとりも貧しい国に何らかの援助をしていくことを目標としています。これまでは、こうした問題は市民社会やNGOが取り組みばよいのではないかと、または政府の開発援助があるのだからそれでよいのではないかと、思われがちでしたが、私たち個人もグローバル・パートナーシップとして取り組むことになりました。

なぜだと思いますか？それはグローバル化に伴って、国境を越えてさまざまな物や人が速く大量に動くようになったからです。例えば感染症。鳥インフルエンザやSARSから自分の国だけ、自分の家族だけ、あるいは自分だけを守ることはできません。環境もそうです。どこかで工業化が進み、空気中に排出された二酸化炭素で温暖化が進んだ場合、海水の水位が上がってどこ

かの国が沈むかもしれません。現代は一つの国で起きることが私たちの生活に直接影響を及ぼす社会なのです。世界に見られる格差をなくしていくことは、私たちの生活にも深くかかわっています。

女性が抱えるリプロダクティブ・ヘルスをめぐる12の問題

リプロダクティブ・ヘルスをめぐって、各国でどんな問題があるのか150か国で調査し、その結果を12の物語にまとめました。最初のビデオは「男児を希望する社会と妊娠を強いられる女性」です。男の子でないと家名を継げない、財産を相続できない、お葬式が出せないといった理由で、どうしても男の子が欲しいという社会がまだあります。男の子が産まれるまで出産したため、出産間隔が短くなり母体が疲弊してお母さんが亡くなってしまふ事例です。

2番目は「女性性器切除を受けさせられる女兒」です。アフリカを中心に行われている5、6歳から10歳の女の子の女性性器をナイフやとがった石でえぐり取るという儀式です。感染症で大勢が死亡しており、生き残っても排尿するたびに痛みます。

3番目は日本の事例で「妊娠のために仕事を断念させられる女性」です。

4番目は「妻が健康上の理由で避妊方法を知ろうとして医師を訪れたところ、医師が夫に告げ、夫から暴力を受ける」という事例です。

5番目は「体力的に厳しいので不妊手術を受けたいのに、夫も医者もなかなか認められない女性」です。

6番目は「10代で望まない妊娠をした少女が、家族や恋人に見捨てられる」事例です。

7番目は「若年結婚」です。南アジアでは一般的ですが、10歳～11歳で結婚させられることがあります。若年結婚により、子どもが子どもを産むという現象が生まれます。

8番目はイギリスの事例で「『女性とは子どもを産むものだ』という社会的固定観念に苦しめられる不妊症の若い女性」です。

9番目はアフガニスタンの事例で「文化的・宗教的理由から男性医師（夫以外の男性）に診察してもらえず苦しむ女性」です。タリバン時代には、女性は外で仕事ができなかったため、女性の医師がおらず、出産の際に何か問題があっても男性医師に診察してもらえず、妊産婦が死亡していました。

10番目は「適切な避妊方法を得られない若い女性が望まない妊娠をし、子どもを育てられないため仕方なく養子に出した」という事例です。

11番目は「村の女性たちが家庭内暴力を話し合う集会を開催する。しかし、現在暴力を受けている女性は、夫が妻を外に出さないため欠席している」というインドの事例です。

12番目はラトビアの事例で「強制売春



をさせられる子どもや若い女性」です。ソ連崩壊後、旧ソ連邦は市場経済の荒波にもまれ、ラトビアでは経済格差が非常に大きくなりました。貧しさゆえに子どもに売春をさせるという性的搾取の問題があります。(ビデオ上映:12分間)

さて、これらは途上国だけではなく日本でも問題になっています。10代の望まない妊娠では中絶をするのが一般的で、15～19歳の妊娠中絶件数だけがここ10年間増えているのです。残念ながら、日本の10代の若者は、自分の健康を守るために考え、行動できないのが現状のようです。

また、先進国でエイズ患者が増えているのは日本だけです。つまりHIV感染の予防ができていないということです。日本のように教育レベルが高く、誰もが教育を受けている国でなぜそれができないのかをぜひ考えていただきたいと思います。

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」についてお話ししたのは、人口問題を考える際に単に人口の増減を見るだけでなく、人口を構成している私たち一人ひとりの生活の質を保証することも大切な要素だと考えるからです。生活の質を保証するとは、教育を受けたいと思えば受けられることができ、さまざまな感染症から自分の身を守りたいと思えばそれができるとする手

段や情報を知る権利が皆にあるということです。

「自分らしく生きられる社会」

人口問題といえば、数の問題と考えがちですが、私たち一人ひとりが選択肢を持ち、選択できる社会を作ることとも関連があります。産みたい人が産める社会、産めない人も自分らしく生きられる優しい社会を作らなくてはなりません。開発途上国では子どもがいなくて一人前の女と見なされないことが多いのですが、どんなに望んでも子どもができない人は10～15%いると言われています。そういう人たちが肩身の狭い思いをしない社会を目指すこともひとつの人口問題の捉え方だと思います。

ボーダレス化、グローバル化の加速により、人の流れや感染症などが拡大し、世

界全体での取組が必要になっています。また、世界市民、コミュニティの住人として私たち一人ひとりが共生していくことも重要です。

人口減少社会は、これからの私たちの生き方を考え直すよいチャンスを与えてくれます。私たちの意識を変えないと、ただ単に人口が減って困るという発想になりがちです。これまでよいと思っていたこと、当たり前だと思っていたことも、もしかするとそうではないかもしれないという柔軟な発想が必要です。

国際協力に30年間携わってきて、何よりも大切だと思うのは、誰もが教育を受けられることです。単に、読み書き、計算ができるだけでなく、物を知り、理解し、自分で考えられる力を世界中の人々に与えなければ、公平な社会にはならないのです。人口が減るということは、質的にも何らかの変化を迫られるはずですが、そのときに、これまでと同じ考え方をするのではなく、これから人口が減少していく中で、自分らしい生き方ができる社会を作っていくことが、人口減少社会を迎える私たちに与えられた課題だと思います。

ご静聴ありがとうございました。



国連人口基金

国連人口基金のシンボルマークは、鮮やかなオレンジ色と、大小のオレンジ色の●で構成されたデザインが特徴です。オレンジ色は「若さ」

のシンボル—国連人口基金は、若者に対しての活動に、特に力を入れています。大小のオレンジ色の●はわたしたちのいちばん大切な「命」を表します。UNFPAというアイデンティティをやさしく囲む大きなオレンジ色の●、そしてその横に並ぶ小さなオレンジ色の●。いくつものオレンジ色の●は、続いていく命、世代から世代へと受け継がれていく命の営みの大切さを象徴しています。同時に、「杓子定規な組織でなく、人々に近い、オープンな国連人口基金」でありつづけてほしいという思いが、直線や枠のないデザインにこめられています。

P.19に「世界人口デー」に関連した情報を掲載しています。合わせてご覧ください。

(財) 青少年国際交流推進センター理事長あいさつ

この度、平成18年3月27日の(財)青少年国際交流推進センター理事会で理事長に選任され、就任しましたことを皆様に御報告いたしますとともに、本誌面を通じて御挨拶させていただきます。

私は、第2回「青年の船」に管理部員として乗船したことが、国際交流との出会いでした。管理部という職務上での立場でしたが、若かった私にとっては、同年齢の団員同様素晴らしい世界との出会いでした。その後、縁あって、青年国際交流事業を所管する総務庁青少年対策本部次長を務め、青少年育成に深くかかわることになりました。

昨今は、青少年に関する痛ましい事件が相次いでいますが、青少年対策において最も大切に考えていかなければならないのが、健全な青少年の育成と青年リーダーの養成であると考えます。情報があふれ国際化が進む変化の激しい時代の中で、次代を担う青年として、どのような青年を育てていくべきかを真剣に考え、今の時代に求められる青年リーダーの育成に取り組むべきではないでしょうか。

1959年に始まった内閣府の青年国際交流事業は、今年で48年目を迎えましたが、常に時代を見つめながら変革を遂げつつ人材の育成

に努め歴史を重ねてきました。そして、事業終了後も参加青年間のネットワークを維持・拡大するとともに、このネットワークを通じて事後活動に取り組み、日本国内ばかりでなく海外との活動でも成果を残してきたものと認識しています。これからの時代に、既参加青年たちが、グローバルなネットワークの活用等で培った国際的な視野を持ちつつ、地域の視点にたった青少年育成活動を始めとする社会貢献活動に取り組んでいくことは大きな意義があります。

そして、当財団の大きな役割の一つは、内閣府青年国際交流事業の事後活動団体である日本青年国際交流機構(IYEO)と手を携えて、国際交流活動を通じ、社会が必要とする人材育成に努めることであると考えます。今後とも、IYEOの活動と、IYEOをはじめ世界各国の既参加青年組織間のネットワーク作り等を強くバックアップしつつ、共に社会に貢献できる活動に取り組むとともに、人材育成に努めてまいりたいと存じますので、皆様のより一層の御支援御協力をお願い申し上げます。



第7期財団法人青少年国際交流推進センター 役員名簿

(任期 平成17年4月1日～平成19年3月31日)

平成18年5月25日現在

| 理 事 | | |
|-------|-------|----------------------------------|
| 会 長 | 石川 忠雄 | 慶応義塾大学名誉教授 |
| 副 会 長 | 山田 麟司 | (財)統計情報研究開発センター理事長 元総務事務次官 |
| 理 事 長 | 上村 知昭 | 元内閣広報官 |
| 専務理事 | 坂田 清一 | 元日本青年国際交流機構会長 |
| 理 事 | 井出 満 | 元総務庁統計局長 |
| | 大森 充 | 元日本青年国際交流機構会長 |
| | 川上 和久 | 明治学院大学法学部長 |
| | 木原 光資 | 東都交通(株)代表取締役社長 |
| | 酒井 洋幸 | 前日本青年国際交流機構会長 |
| | 寺下 英明 | 元日本青年国際交流機構会長 |
| | 永山 貞則 | (財)日本統計協会副会長 元総理府統計局長 |
| | 永山 喜緑 | 元沖縄開発事務次官(任期平成18.5.25～平成19.3.31) |
| | 日野乾太郎 | 商船三井客船(株)代表取締役社長 |
| | 松尾 弉之 | 上智大学教授 |
| 監 事 | | |
| 監 事 | 奥野 照義 | 日本青年国際交流機構顧問 |
| | 久世 勇 | 元財団法人公益法人協会専門委員 元国立公文書館公文書課長 |

(五十音順)
(全員非常勤、無報酬)

第7期財団法人青少年国際交流推進センター 評議員名簿

(任期 平成18年5月30日～平成20年5月29日)

平成18年5月30日現在

| | |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| 井上 達夫 | (独)北方領土問題対策協会理事長 元総務庁統計局長 |
| 浦田 信行 | (財)交通安全教育普及協会専務理事 元総務庁統計センター所長 |
| 上岡 弘二 | 東京外国語大学名誉教授 |
| 北島 露 | 関西国際大学名誉教授 |
| 小堀 巖 | 国連大学上級学術顧問 |
| 坂本 昇一 | 千葉大学名誉教授 |
| 高島 弘 | 元(社)全国交通安全母の会連合会専務理事 元総理府恩給局長 |
| 田中 南欧子 | 日本青年国際交流機構会長 |
| 長瀬 眞 | 全日本空輸(株)常務取締役執行役員 |
| 中野 智昭 | 日本青年国際交流機構参与 |
| 本多 秀司 | CRC国際協力(株)顧問 元総理府官房審議官 |
| 三浦 博史 | 日本青年国際交流機構参与 |
| 焼野 嘉津人 | 日本青年国際交流機構監査役 |
| Rabinder Malik (ラビンダー・マリク) | 城西国際大学非常勤講師 元国連大学学長室長 |
| 領木 新一郎 | 大阪瓦斯(株)相談役 |

(五十音順)
(全員非常勤、無報酬)

平成17年度「航空機による青年海外派遣」事業報告会

参加青年
ヨルダンのブース展示で来場者と談笑する



平成17年度「航空機による青年海外派遣」事業報告会が、平成18年2月19日(日)独立行政法人オリンピック記念青少年総合センターにて行われました。前半は全体会で訪問国活動の成果を発表し、後半は団ごとのブース展示、各訪問国から持ち帰ったお茶を試飲するお茶ブースの他、各訪問国で撮影された写真パネルの人気投票等を行いました。約140名が来場し、会場は熱気に包まれました。

第32回「東南アジア青年の船」事業報告会

第32回「東南アジア青年の船」事業報告会が、平成18年3月26日独立行政法人オリンピック記念青少年総合センターにて行われました。『出会い・絆・未来 ～51日間の奇跡～』をテーマに、ASEAN(東南アジア諸国連合)参加青年や訪問地の人々と心と心で触れ合った交流の様子、船内や寄港地で体験して得た出来事を、パネルディスカッション、展示、アジアダンス、ビデオ上映と様々な形で表現しました。



各国の民族衣装等を使って
ASEANの文化を紹介する(フィリピン)



坂本 達 『**やった。**』

第18回「東南アジア青年の船」事業参加青年
第31回「東南アジア青年の船」事業ナショナル・リーダー

ついに、『**やった。**』が幻冬舎文庫から文庫本に。
やった! やった! またやった!!

おかげさまで4月の発売以来、書店で平積みが続いています!

○11刷となった単行本「やった。」(三起商行)の発刊から5年。現在の著者の想いを綴る「あとがき」に注目!子どもの頃の思い出、両親から教えられたことなど、坂本達の原点に迫ります!さらに、講演会などで子どもたちに伝えていること、これからの夢などのメッセージも追加。新たな世界一周中の写真もカラーでご紹介。あなたの知らなかった新たな「やった。」の世界が目の前に!!

- 「やった。」4年3ヶ月の有給休暇で「自転車世界一周」をした男
- 写真・文 坂本 達
- 出版社 幻冬舎文庫
- 価格 560円(税込)

著者からのひと言。 単行本の「やった。」を発刊してから早5年。今まで書けなかったことを「文庫本あとがき」で8000字加筆しました。「夢のバイブル」ぜひ読んで下さい!

第11回SWYAAインターナショナル・リユニオン報告

2006年2月11日～2月16日



モーリシャス（ポートルイス）にて実施されたインターナショナル・リユニオンには、9か国から総勢約40名の既参加青年が集まった（途中参加のモーリシャス既参加青年含む）。

SWYAAインターナショナル・リユニオンは、日本青年国際交流機構(IYEO)と各国の事後活動組織の共催で年に一度実施され、参加者の活発な意見交換と情報交換が行われるプログラムであり、今年もモーリシャスで開催された。モーリシャス事後活動組織は、過去の「世界青年の船」事業参加が2度のみという事情もあり、組織の基盤が十分でないにもかかわらず、5泊6日のリユニオン及び2日間の第18回「世界青年の船」事業の訪問国活動について、政府や地元団体と協力しながら、万全の体制で成功に導いた。

| 月日 | 日程 |
|--------------|---|
| 2月11日 (土) | リユニオン第1日目 *外国参加青年、日本参加青年、ポートルイス、モーリシャス着 *パンブルムース植物園訪問 |
| 2月12日 (日) | リユニオン第2日目 *全体オリエンテーション *SWYAAインターナショナル・リユニオン開会式 *カクテル・パーティー |
| 2月13日 (月) | リユニオン第3日目 *にっぽん丸入港 *船上でのディスカッション・プログラム -日本青年国際交流機構(IYEO)代表者によるプレゼンテーション -Dr. Rabinder Malik氏による「ボランティア」に関する講義 -小グループに分かれての「ボランティア活動」をテーマとしたディスカッションと発表 *にっぽん丸船上レセプション |
| 2月14日 (火) | リユニオン第4日目 *ポートルイス散策 *モーリシャス砂糖工場資料館訪問 *にっぽん丸のドルフィン・ホールにて参加青年とのお別れ・にっぽん丸出航 |
| 2月15日 (水) | リユニオン第5日目 *社会貢献活動 児童福祉施設「Day Care Center」を訪問 *リユニオン参加証授与式 |
| 2月16日 (木) | リユニオン第6日目 *モーリシャス南部国立公園を訪問 *リユニオン解散式 *リユニオン参加者帰国 |



平和を願って第18回「世界青年の船」事業参加者と行進した「ピース・ウォーク」



ブラック・リバー峡谷



パンブルムース植物園



児童福祉施設「Montagne Blanch Day Care Center」を訪問

モーリシャス・リユニオンに参加して

第10回「世界青年の船」事業参加青年
リユニオン・スタッフ 中山 陽子

インド洋の貴婦人と呼ばれるモーリシャス。場所はマダガスカルに近く、民族的にはインド人が大半で、様々な人種の人たちが融合して平和に暮らしている島国。出発前に入りの情報は少なく、どんな場所か想像すらできなかった。実際、モーリシャスは遠く、香港で1泊してやっと到着。着陸したモーリシャスはのどかな国際空港だった。

そののどかな島国モーリシャスは、過去2回「世界青年の船」事業へ参加したのみで、既参加青年の数が少なく、「にっぽん丸」がモーリシャスに寄港するための訪問国活動準備と、リユニオン準備に大忙しであった。それにもかかわらず早めに到着したスタッフを含めた参加者をもてなすホスピタリティーには感動した。例えば夕食時には兄弟も集まって家族のように和気あいあいと食事をするので、普段もこうなのか聞いてみると、そうだと言う。気づいたら自然と大家族のような結束が出来上がっていて、私たちがその一員となっていた。

リユニオンは毎日盛りだくさんのプログラムだった。特に「にっぽん丸」が寄港した2日間は忙しく充実していた。港での参加青年歓迎、第18回「世界青年の船」事業(SWY18)参加青年と一緒に平和を願って街を歩いた「ピース・ウォーク」、船内でのディスカッション・プログラム、船内歓迎レセプション。既参加青年は忘れかけていた船上でのカルチャーショックや戸惑いの気持ちを現役の参加青年に伝えた。また現役参加青年は下船後の事後活動に興味を持って質問してくれた。このような貴重な交流は、遠いモーリシャスまで来た甲斐があったと実感させてくれた。

さらに、忘れられない貴重な体験は、モーリシャスの既参加青年がボランティア活動をしている児童福祉施設を訪問できたことである。バスを降りた瞬間から地元スタッフ総出の温かい歓迎を受け、交流が始まった。子供たちとはすぐに馴染むことができた。事前にこの施設に寄付できる道具やおもちゃがないかお知らせがあったので、



上段右から2番目が本人 ウォーター・フロントのフリータイムに記念撮影

スウェーデンの参加青年は自分の荷物も多い中、地元の病院から寄付してもらった中古の車椅子や杖などを多数持ってきた。車椅子はすぐに使用され、子供やスタッフの嬉しそうな顔を見ることができた。子供たちが素直に接してくれたので、私たちもその魔法で瞬時に心を開くことができた。日本では普段機会のない交流ができるのもリユニオンの魅力だと実感した。

リユニオンに参加して、改めて違う国や考えを持った人が顔と顔を合わせて会う影響力は大きいと感じた。参加者がモーリシャスに来た理由はそれぞれ違うが、毎日話しているうちに、「世界青年の船」事業への想い、地域ボランティア活動の話、仕事や家族や趣味の話まで話題が広がった。多くの人はボランティアに積極的にかかわっていて、リユニオンでその報告をしたり、新しいアイデアを積極的に吸収したりとリユニオンの場をうまく活用していた。自分が働くNGOや所属する「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)がこのリユニオンに価値を見出し、参加者の中には積極的なサポートを受けられた人もいたので、今後、リユニオンが更に認知され、参加者の増加につながればと思った。仲間から多くを学び、自分も何か人や地域に貢献できる活動を続けようとして心に誓って帰国した。

今の時代インターネットを使えば瞬時に情報交換はできるが、やはり顔を合わせることでそれ以上の交流が生まれる。それがリユニオンの醍醐味だと実感した。

既参加青年会議報告 2006年2月21日～3月6日

「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議（以下、既参加青年会議）に参加した代表者は、シンガポールに集結して会議を行ったのちに「にっぽん丸」に乗船し、第18回「世界青年の船」事業の最終区間の運航と併行して会議の前半を行いました。また会議の後半は東京にて実施されました。

参加国と参加者：バーレーン、ギリシャ、インド、ケニア、モーリシャス、ノルウェー、セイシェル、スリランカ、スウェーデン、タンザニア、アラブ首長国連邦、イエメン、日本 計13か国及び実行委員8名と事務局代表者



既参加青年会議 (Ex-PY会議) 代表者とスタッフ



会議の議長を務めたアラブ首長国連邦の代表 Adnan Khoory氏



新しく決定したSWYAAロゴ



にっぽん丸船上での会議

会議スケジュール

| 月日 | 日程 |
|--------------|--|
| 2月21日 (火) | 会議参加者、シンガポール |
| 2月22日 (水) | 【会議①】オリエンテーション、事後活動連携強化会議1の準備 にっぽん丸着、乗船準備・乗船/出航 |
| 2月23日 (木) | 【事後活動連携強化プログラム1】 【会議②】事後活動連携強化プログラム1の振り返り、事後活動連携強化プログラム2に向けて、異文化理解ハンドブック改訂について *改訂小委員会設置 |
| 2月24日 (金) | 「世界青年の船」本体事業への参加 (サマリーフォーラム) |
| 2月25日 (土) | 【会議③】SWYAA憲章について(内容確認)、組織としてのあり方・事後活動組織の目指す方向性について 【会議④】「世界青年の船」事業、事後活動連携強化プログラム2の準備 |
| 2月26日 (日) | 【会議⑤】「世界青年の船」事業、事後活動連携強化プログラム2の準備、その他「世界青年の船」事業本体事業への参加(エキシビジョン) |
| 2月27日 (月) | 【事後活動連携強化プログラム2】 「世界青年の船」本体事業への参加(フェアウェル) |
| 2月28日 (火) | 「世界青年の船」本体事業への参加(修了式) 事後活動連携強化プログラム2の振り返り、会議 |
| 3月1日 (水) | 【会議⑥】「世界青年の船」事業への提案、内閣府訪問と懇談の準備 |
| 3月2日 (木) | 晴海入港・下船 実行委員会/実行委員との歓迎夕食会 |
| 3月3日 (金) | 表敬訪問・内閣府担当者との懇談 【会議⑦】事後活動プロジェクト立案、異文化理解ハンドブックの改定 |
| 3月4日 (土) | 【会議⑧】事後活動継続プロジェクトについて、SWY-Dayの発展(共通テーマ、SWY20周年に向けて) |
| 3月5日 (日) | 【会議⑨⑩】その他事後活動プロジェクトについて(グローバル・フォト・コンテスト、ルネッサンス事業からのプロジェクトなど) フェアウェル・パーティー |
| 3月6日 (月) | 会議参加者帰国 |

主要な活動と成果

●事後活動連携強化プログラム

にっぽん丸船上にて会議代表者は、第18回「世界青年の船」事業参加青年に対して下船後に“どのような活動が期待されるか、またどのような活動を行っていくことが可能であるか”ということについて、パワーポイント・プレゼンテーション、国別ミーティング、テーマ別ミーティングを取り入れた2回のセッションで説明した。

●カントリー・レポート(各国報告)

代表者が各国で事前に準備してきたレポートをもとに、各国が独自に行っている社会貢献活動の報告や大使館との連携活動事例などの発表が行われた。

●SWYAA憲章の合意

昨年度改定されたSWYAA憲章の合意がなされ、全事後活動組織統一の憲章が確立した。

●異文化理解ハンドブック(電子版)の作成

2000年に発行された初版を改定し、電子化してウェブサイトに掲載することが同意された。

<http://www.iyeo.or.jp/swyaa/Handbook2006/COVERPAGE.htm>

●ネチケット(ネット・エチケット)の共通合意

メーリングリストの間違った使用方法を避けるため、「ネチケット(ネット使用上の注意事項)」をまとめ、SWYのメーリングリストに定期的にお知らせを流すことが決まった。

●SWYAAロゴの決定

「世界青年の船」事後活動組織共通のロゴが確定した。(左ページ参照)



東京でのフェアウェル・パーティーにて記念撮影

●事後活動プロジェクトの推進

◆グローバル・フォト・コンテスト

◆プロモーション・キット

◆「世界青年の船」記念日(International SWY Day)
→1月18日(※第1回「世界青年の船」事業出航日を記念して)

◆ペンパル・プロジェクト

◆「世界青年の船」事業20周年記念

会議の詳細は、www.swyaa.org. → Conference →2006
をご覧ください。



「世界青年の船」事業事後活動連携強化プログラム(にっぽん丸船上)で、SWY18参加者に事後活動の説明をする代表者たち

SSEAYP International General Assembly (SIGA) in Brunei Darussalam

「東南アジア青年の船」事業アセアン各国事後活動組織と、日本青年国際交流機構で組織しているSSEAYP Internationalの第18回総会(SIGA)が、4月28日～5月1日にブルネイで開催され、各国からの100名以上の参加者を得て成功裏に終了しました。ブルネイ同窓会並びに御協力いただいたブルネイ政府に深く感謝するとともに、参加者の皆さんの声をお届けして報告とさせていただきます。

SIGA日程表

| 日程 | 平成18年4月28日(金)～5月1日(月) |
|-------|---|
| 場所 | ブルネイ(バンドル・スリ・ブガワン) |
| プログラム | 4/28 参加者到着、水上集落での夕食会 4/29 開会式、SIGAフォーラム、総会、分科会、歓迎レセプション 4/30 バンドル・スリ・ブガワン市内見学、ショッピング、閉会式、歓送会 5/1 参加者帰国 |

SIGA 2006 in Brunei Darussalam

第18回SIGAブルネイ大会は、“SSEAYP for Peace and Unity”というテーマで、4月28日から5月1日までブルネイの首都バンドル・スリ・ブガワンにおいて開催されました。空港に降り立つと、ブルネイの「東南アジア青年の船」事業既参加青年の実行委員が、税関ゲートの中に出迎えに来ており、とてもうれしくなりました。初めての訪問で勝手がわからない私たちゲストを、このように温かく迎え入れようとする心に感動しました。

初日の夕刻、川沿いの「水上集落」を訪問する機会があり楽しみにしていました。想像以上にたくさんの人々が生活し、住居ばかりが大きな小学校も水上に建てられていて驚かされました。集落に通じる木道の上で感じた風がひんやりとして涼しく、暑さを逃れるために先人らが築いた暮らし方だと聞いて納得です。

大会には、日本から19人、マレーシアやタイ、シンガポールの各国も多く参加者を携え、ブルネイ以外からおおよそ100人、また、ブルネイ既参加青年も多数駆けつけました。開会式会場に飾られた11の国旗に、改めて様々な民族で構成されているアセアンの人々と心をひとつにすることができる「東南アジア青年の船」事業(以下、「東ア船」)の積年の偉大さを実感し、日本政府のポイントを高めた瞬間でもありました。開会式はブルネイ文化青年スポーツ省のゲストスピーチなど格調高く、SSEAYPインターナショナル事務局長である大河原友子さん(日本青年国際交流機構副会長)もこの1年間の活動を報告されました。その後、SIGAフォーラムと総会があり、午後はワークショップに参加。ダンサーに美しい踊り方のコツを教わりブルネイ



ブルネイの伝統的なダンスを教わる筆者

昭和51年度「青年海外派遣」(北欧班)参加青年
平成8年度「国際青年育成交流」事業(ヨルダン)団長
日本青年国際交流機構副会長 佐藤 周一

の伝統的なダンスを楽しみました。最終日は、何と白バイの先導でバスを連ねてモスクや王宮の門前などを観光(市民の皆さんごめんなさい)。いよいよ最後の夜の夕食会は、チャリティの「シリラッフル(くじ)」や即興のダンスで最高に盛り上がり、来年はアンコールワットの地、カンボジアで再会することを約束して、大会の幕は閉じられました。

私が「東ア船」の既参加青年が集うSIGAに出会ったのは、今から11年前の1995年マレーシア(クアラルンプール)大会が最初です。

航空機事業出身者である私が「東ア船」同窓会の総会に参加するのは場違い?と思われるかもしれませんが、かつて、「東ア船」事業で来日し、我が家でのホームステイ以来親交を温めてきたマレーシアの友人と再会できることが、SIGAに参加するきっかけでした。その後、幸運にも2001年タイ(バンコク)、2005年ベトナム(ハノイ)と、いくつかの大会に参加する機会に恵まれました。ブルネイ最後の夜の夕食会で、数人の方が「Mr. SIGA」と、古くからの友達のように親しみをもって話しかけてくれました。私のこの体験から、日本の事後活動団体であるIYEOの「東ア船」既参加青年以外の会員も、SIGAに参加することでアセアンとさらに太い絆でつながると感じました。

2007年のカンボジア大会には、多数のIYEO会員が参加しSIGAでの出会いを深められることを期待するものです。多謝。



歓迎レセプションにてブルネイ文化青年スポーツ大臣にIYEOからの記念品を渡す田中 南 敬子 IYEO会長

「王国で感じた、ぬくもりSIGA」

第31回「東南アジア青年の船」事業参加青年
田畑 静吾

輝く太陽に照らされながらそびえたつ純金のモスク。
にえたぎる常夏の中でスカーフを巻く女性。
雄大な自然の中に広がる高速道路を走る高級車。
そう、ここは「ブルネイ・ダルサラーム」王国。

誰もが一度は暮らしてみたいこの石油の王国で、SSEAYP
インターナショナル第18回総会 (SIGA) が開催されました。
ブルネイの人口は約34万人 (ちょうど日本の長野県長野市と同じ規模→さりげなく筆者の出身県を紹介) ととても小さく、街を歩けば親戚や知り合いに会うこともしばしば、車の中でラジオをつければ喋っているDJがSSEAYPの既参加青年だったというエピソードもあったほどの国です。

SIGAの醍醐味は、やはりなんといっても「SSEAYPを再現」
できることです。熱烈な歓迎、おいしい食事、外国人の友達、繰り出されるパフォーマンス、そして、事業参加者は誰もが体験したことのある終わりのないフォトセッション。さらに、総会では、ブルネイの大臣を招いたシンポジウム、分科会ではASEANの人々が集まるからこそできるSSEAYPインターナショナル共通プロジェクトのディスカッションもありました。また、SIGAでは有名な施設の訪問、現地のおいしい料理食べ歩きと数多くのアクティビティーが用意されていたので、それらの活動を通して新しく知り合う友達もたくさんでき、とても有意



ブルネイ料理に挑戦する大河原友子
SSEAYPインターナショナル事務局長 (IYEO副会長)



日本人参加者とともに (筆者後列左から4番目)

義な時間を過ごしました。

また同時に、SIGAが開催されるのは、様々な人の支えからなる賜物だということも実感しました。歴史あるSSEAYPを支えてきた関係者の方々、大先輩方への感謝はもちろんのこと、SIGAの準備にあたり、何十回もミーティングに参加したという既参加青年から、何十年もホストファミリーの受入れに携わっているという方々まで、本当に多くの人の協力と理解があるからこそSIGAそしてSSEAYPが実現可能なのだということを再認識しました。まさに、内閣府の青年国際交流事業で受けた恩恵が、「よい感じで循環し、よい感じで社会に還元されている」という実態を垣間見た瞬間でもありました。

SIGAの期間中に私は幸運にも、日本の事後活動発表を担当し、全国で行われているIYEO活動について発表しました。日本各地で活動されているIYEOの皆さんの顔を思い浮かべながら発表できたので、それが何よりの「支え」と「自信」になりました。他国の同窓会でも様々な活動が行われているわけですが、やはり日本は内閣府事業のホスト国であるという立場もあり、47都道府県のIYEOで活動が展開されていることは、他国と比べても特筆すべき点であり、存続・拡張させていく重要性も再認識しました。

きっと、このマクロコズムを受け取っている方々は、日本各地、世界各地で活躍されていることと思います。来年の第19回SIGAは初のカンボジアにて開催される予定ですが、SIGAまたIYEOの活動を通して、多くの皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

14 日韓指導者交流

(財)青少年国際交流推進センターと韓国青少年交流振興協会の共同事業である「日韓指導者交流」が行われました。平成17年度は、平成18年3月15日～19日まで韓国から4名を招へいし、平成18年3月21日～25日まで日本から8名を派遣しました。

招へい日程

| 月日 | 日程 |
|------|---|
| 3/15 | 来日、夕食会 |
| 3/16 | 歌舞伎座にて歌舞伎鑑賞 池袋防災館にて地震体験 (財)青少年国際交流推進センター 山田副理事長主催歓迎会 |
| 3/17 | 東京タワー、浅草、お台場見学 ホームステイ |
| 3/18 | 終日ホームステイ |
| 3/19 | 都内見学、帰国 |

派遣日程

| 月日 | 日程 |
|------|---------------------------|
| 3/21 | ソウル到着、歓迎会 |
| 3/22 | キムチ作り体験、ホームステイ |
| 3/23 | 終日ホームステイ |
| 3/24 | ホームステイ、市場文化体験 韓国青年との交流 |
| 3/25 | 帰国 |



◀(財)青少年国際交流推進センター山田理事長と10年ぶりに再会する韓国代表団団長(派遣プログラム)

▼ホームステイ対面式(招へいプログラム)



日韓指導者交流事業に参加して



初めてのキムチ作り体験に感動!

徳島県青年国際交流機構 都築 智子

国際青年育成交流事業(青年海外派遣)でドミニカ共和国へ派遣されてから今年でちょうど10年目。その節目となる年に、今度は指導者という立場で韓国へ行く機会に恵まれたことは私にとって大きな意味がありました。

今回のプログラムにあった文化交流やホームステイは、徳島県での受入れプログラムにいつも組み込んでいることで、それを参加青年の立場で10年ぶりに体験できました。

いつもできるだけ参加青年の立場でプログラム内容を考え、ホストファミリーへの説明では、参加青年が過ごしやすい環境をいかに作るか等を含めてきましたが、あらためて考えなければならないことをたくさん発見しました。

例えば、忙しいスケジュールのために、参加青年がどれほど疲れているかを考慮して、ホストファミリーに説明を行うとか、全体のプログラムにはかなり余裕があった方がよいとか(いつも詰め込みすぎていた)、私たち受入れ側のIYEOメンバーの役割分担をきっちりしておくとか(参加青年に気を遣わせるような受入れ態勢ではいけないと思った)、本当にいろいろなことに気づきました。

何より良かったのは、平成17年度に日本に招へいされた韓国青年に再会できたことです。事前に韓国の青年代表には今回の訪問のことを連絡していましたが、青年代表の尽力もあり、団長さんや副団長さんはじめ総勢15名

もの青年たちと再会でき、その上、たまたま同時期に韓国に来ていた徳島のホストファミリーや、今回の日韓指導者交流事業に参加していた他県IYEOメンバーとも思いがけず会え、楽しい時間が持てました。

たくさんの方が集まってくれたことがとてもありがたく、同時に、人と人とのつながりが広がっていくのがうれしくて胸一杯になり、韓国の副団長さんと同様、少し涙ぐんでしまいました。でも本当にうれしく楽しい時間でした。

今回の経験は私にとってよいことづくめでしたが(坂田団長のお話も勉強になりありがたかったです)、せっかく作ったキムチを持って帰ることができなかったことが、とても残念で唯一の心残りでした。

今回の参加メンバー7名全員(このメンバーで本当によかったです)と、このような機会を与えてくれたみなさんに感謝するとともに、この事業をできる限り続けてほしいと心から願っています。



2005年11月に県で受け入れた韓国青年と共に(筆者前列中央)(派遣プログラム)



第21回「東南アジア青年の船」事業に参加されたきっかけを教えてください。

私が「東南アジア青年の船」事業(以下、「東ア船」)に参加しようとしていた当時、よくジャーナリズムに登場したのは、「21世紀はアジアの時代」という言葉でした。高度成長の波が、東アジアNIESからアセアン諸国へと波及している最中でした。ちょうど進路を模索していた私は、アジアというキーワードに「これだ!」とびんときたのですが、ひとくちにアジアといっても、広いこと広いこと。いったいどこから…と思っていた矢先に知ったのが、「東ア船」でした。いちどきに東南アジア6か国をめぐることができるプログラムは魅力的で、夢のようなホントの話に、期待に胸をふくらませて応募しました。

「東ア船」への参加は、私の人生の中で、それまでの学業中心の準備期から、実社会へ乗り出し始めるターニングポイントにあたります。また、漠然と抱きはじめていた「ライフワークとしてのアジア」というテーマは、その後の作家活動の出発点でもあります。

「東ア船」参加中に印象的だったことは何ですか。

東南アジアという熱帯気候ならではのなあと、目からウロコが落ちる思い

第21回「東南アジア青年の船」事業参加青年

あすな
亜洲奈 みづほさん

亜洲奈みづほさんは第21回「東南アジア青年の船」事業に参加後、作家としてデビュー、国内だけでなく、海外でもご活躍中です。亜洲奈さんの活動は多岐にわたり、さまざまな講演活動やラジオ出演、政府の国際文化交流政策組織「日韓文化交流会議」の委員も務めておられます。「東南アジア青年の船」事業からどんな影響を受けられたのか、また、アジアへの思いを語っていただきました。

がしたのが、「もてなしの方法」でした。「遠いところからよく来た」と歓迎され、続けて、「ちょっと水浴びでもしていきなさい」と言われるのです。「ちょっとお茶でも飲んで行きなさい」の聞き間違いかと耳を疑いました。

ホームステイで泊まるわけでもない、初対面の家にあがり、あいさつもそこそこに、いきなり風呂場に連れられ、ドラム缶に張られた水を前に「私はこんなところで何をしていますのしょう」と立ちつくしたものです。温水シャワーではなく冷水なのです。ところが、思い切って浴びてみると、リフレッシュすることすること! 熱帯ならではの爽快感でした。

さらには、異邦人をもてなし、応接室だけではなく水場にまで通してしまうという受け入れ方がうれしくもありました。ムスリムが祈りの際に水で手足を清め、リフレッシュする風習の必要性が、少しだけわかったような気もしました。

これは決して後進性ではなく、その地その国の気候や風習にもとづく効率性、ライフスタイルだと思います。こうした驚きが各国で数かぎりなく重ねられるのが、国際交流の醍醐味ではないでしょうか。文化の違いに驚き、楽しむとでもいいでしょうか。

アジアに日本を照らし出す

インドネシアの遊園地で、順番待ちし

ているときのことでした。私たちが日本人だとわかると、並んでいた小学生が、どうも「ドラえもんドラえもん」と連呼しているようなのです。試しにテーマソングを歌ってみたら、「知ってる~!」とぱっと彼らの顔が明るくなったのです。そのまま思わず一曲、歌ってしまいました。

私がアジアのエスニック風物をきっかけに、現地への興味を高めたように、東南アジアの人々もまた、身近な日本を切り口に、日本の印象を形づくっています。インドネシアやタイの場合、日本製品や少し前のアニメなどが入口になることが多いですね。

今までさまざまな日本像に出会ってき



▲タイ中世の民族衣装を着て

ました。日本との心理的な距離、かかわった時代など、さまざまな要因が関係しています。これはほんのちょっとした出来事ですが、アジアを巡りながら無数に積み重ねていくうちに、彼らが眺める日本像がパッチワーク状に立ち上がるのは興味深いことです。彼らを鏡に我が身を振り返る、アジアに日本を照らしてみてもいいでしょうか。

もちろん、アニメやドラマだけが日本ではなく、それをさらに「顔の見える日本」とするために、実際に青年同士が語りあう国際交流事業があるのかもしれませんが、「東ア船」に参加したことは、その後の人生にどんな影響を与えましたか。

事業に参加した後、まだ在学中でしたが、本格的に作家としてデビュー、アジアを意味する「亜洲」をこめたペンネーム「亜洲奈みづほ」を名乗るようになりました。それから12年、アジア10か国20都市近くを取材しながら、アジアをテーマとした著作を国内外で20冊近く出版してきました。台湾や上海に語学留学をしたり、ビジネスのために韓国との間を往復したこともありました。著作活動以外には、講演やラジオ出演のほか、ホームページ「月刊モダネシア」を運営しています。
<http://page.freett.com/asna/>

「東ア船」を原体験として得た、アジアへの視点、現代アジアのインパクトが、事業参加10年後に立ち上げたホームページのタイトルになっています。参加当時流行していたアジアン・ポップスの帝王、シンガポールのディック・リーの曲「モダネシア」をヒントに名づけてみました。

私の作品は、あるときは風物誌であったり、教養書であったり、恋愛小説であったりとさまざまですが、いずれも広い意味での国際交流、ひとこと言えば異文



▲王立寺院ワット・プラケオ(第21回「東南アジア青年の船」事業参加当時)

化理解と呼ばれるものにくられるかもしれません。皆さんには、アジアへのアンテナをびよりと立ててほしい、できれば実際に彼らと手をとりあってほしいと願っています。私の仕事は、種まきなのかもしれません。私ができるのは、アジア世界の紹介、現地情報やノウハウの提供です。こうした書籍を参考に、実際に現地へ赴くなり、異文化体験をするなり、花を咲かせて実を享受するのは、それを読んだ皆さんのことです。

現在進行形の姿「強く、魅力的なアジア」

この事業に参加したことで得られた宝物は、世界観の広がりです。私の場合は、ひとこと言うなら「貧困・停滞のアジアから、強く魅力的なアジアへ」の大転換であったと思います。成長著しいアジアの最先端をかいまみせてくれたのが、「東ア船」でした。

今でこそビジネス誌やファッション誌から、「強く、魅力的なアジア」の一端を想像するのは難しくありませんが、私の参加した90年代前半当時は、高度成長のニュースは届いても、政情不安の偏見がぬぐいきれない時期でもありました。そんな東南アジアへ、最高級の客船を拠点に、選り抜きのエリート青年と共に、各国政府お勧めの地を巡るのです。

国の事業だからこそ、「エリートが牽引するアジア、彼らの創るアジアの未来」を自分の目で見ることができたのだと思います。「東ア船」を通じて見たアジア、確固たるインフラの上に築かれた、文化の繁栄、優秀なエリートたちの活躍ぶり。これらを目の当たりにしたおかげで、アジア悲観論、金融危機や疫病に伴うアジア過小評価、驚異論や反対感情に視界を曇らされることなく、アジアの現在進行形を見つめてくることができました。

我々はファミリーなんだ

もうひとつの宝物は、「我々はファミリーなんだ」という考え方です。

大海のただ中のひとつ船の中で、「同じ釜の飯」ならぬ同じビュッフェのディナーでテーブルを囲んだり、まるで日本の女の子たちが「あのデザート、おいしい!」と口コミする感覚で「紫イモアイス」や「ココナッツアイス」を勧められたり…。「東ア船」参加当時、20歳そこそこであった私に、朝から晩まで「日常」を通じたこのような体験は、アジアという存在をいつのまにか異文化でなく、ひとつの日常文化として、刷り込んでしまいました。これは異文化についての価値観の転換というより、形成そのものであったのかもしれませんが。



「東ア船魂」とも言うべきものが、実は10年あまり後、アジア自体が迎える新しい時代と響き合ってきます。その時代とは、「東アジア共同体」です。EUばりの地域圏。共同体としてのアジア。これが、いずれ10年20年後に、各国市民の意識やアイデンティティーへの影響という形で身近になってくることでしょう。こうしたアジアの新しい時代に臨む上での精神的なスタンスを、「東ア船魂」、すなわち「我々はファミリーなんだ」というありかたが、私に教えてくれたのかもかもしれません。

「東ア船」の参加青年でいらっしゃるのに、台湾や韓国の著作が多いのはなぜでしょうか。

「東ア船」の残してくれた宝物は、時も

場所も越えたものだったのです。アジアへのまなざし、視点、世界観。ひいては接しかた、それゆえの自らのありかた、生き方のようなものです。

これらの宝物は、決して一過性のものではなく、時も場所も越えて、さまざまな局面に影響を及ぼしてきました。その最たるものは「アジア目線」とも言うべき「アジアからのまなざし」そして「アジアの現在進行形の姿」です。

ひとことで表すなら、「想いのネットワーク」ともいいたいでしょうか。決して支配・被支配や上下関係によるものでない国際関係。「行ったことがある」「会ったことがある」そんな唯一無二の経験に基づくネットワークを、国際交流経験者なら大切にしていることでしょう。文通といった個人レベルから、ニュースの受信・視聴、ひいては一大事件に対する「意識の一票」の投げ方にいたるまで、世界の中の日本人としてのありかた・生き方のバックボーンとなるものを与えてくれました。

内閣府の交流事業の既参加青年へのメッセージをお願いします。

先ほど申し上げたように、アジアは21世紀、新しい時代へと突入しつつあります。格差ばかりが強調され、意識のうえで分断されていた、ときには無形の分割統治すらされかねなかった状態をようやく脱し、

EUばりの地域圏が建設されつつあります。しかもそれは各国が自発的にかつ同じ目標を志すものでもあります。

東アジア（東南アジアも含む）大協力時代、未来を担う世代を育成しうるのは、内閣府の事業において他にないと認識しています。東アジア共同体の主要各国、アセアン+3をすべて網羅しているので、東アジア共同体時代ならではの汎アジア的な視点を育むという意味でも個人的に期待しています。

「東ア船」だけでなく、「日本・中国青年親善交流」事業や「日本・韓国青年親善交流」事業など、アジアを含む国際交流に参加する・参加した方々は、現在の日本が、これら参加国を含む新しい国際システムに組みこまれつつあり、その精神的な準備を自分は既に済ませているということを実感の上、大協力時代を築いていかれますよう期待しています。

インタビューを終えて

お話しぶりが理路整然としており、描写が精確、緻密で、短時間に非常に密度の濃いお話を聞かせていただきました。紙面の都合で今回は掲載できませんでした。アジア現代文化の世界では、韓国の「韓流」、台湾の「台流」、これに香港や大陸中国を合わせた「華流」が登場しており、次は、「アセアン流」の到来を期待するというお話が印象的でした。

読者プレゼント!

亞洲奈みづほさんの御厚意により、「『アジア』の世紀～新世代が創る越境文化」(中公新書ラクレ)を読者7名にプレゼントします。ご希望の方は、郵便番号、住所、お名前、参加事業、この記事の感想を macrocosm@lyeo.or.jp までメールでお送りください。

締切は7月26日(水)午前10時です。

亞洲奈みづほさんの主な著書・共著

* 台湾・現代風物誌増補改訂版「台湾事始め～ゆとりのくにのキーワード」(2006年、凱風社)

* 現地ルポ教養書「『アジア』の世紀～新世代が創る越境文化」(2004年、中央公論新社中公新書ラクレ)

* 次世代型概説書「現代台湾を知るための60章」(2003年、明石書店)

* 台湾・リラクセーションのアイデア「台湾に行こう!元気になる!」(2003年、PHP研究所)

* アジア暮らしのコツ「アジアのツボ 中国・香港・台湾・韓国」(2002年、3Aネットワーク)

* 韓国・現代風物誌「熱・情・ソウルのキーワード」(2002年、凱風社)



国連の記念日と国際年

世界人口デー (World Population Day) 7月11日

1987年7月11日に世界人口が50億人になったことを
記念して国連が決めました。

国連人口基金東京事務所では、この日を記念した様々なイベントを開催しています。

7月・8月の記念日

| | | |
|----|-----|----------------------|
| 7月 | 3日 | 共同組合の国際デー (7月の第1土曜日) |
| | 11日 | 世界人口デー |
| 8月 | 9日 | 世界の先住民の国際デー |
| | 12日 | 国際青少年デー |
| | 23日 | 奴隷貿易とその廃止を記念する国際デー |

■パネル展示

日程：2006年7月3日(月)～7月14日(金) 10:00～17:30
 休館日：土・日
 会場：渋谷区神宮前5-53-70 UNハウス1階
 参加費：無料
 お申込み：不要
 内容：写真やグラフを用いて人口問題をわかりやすく解説するパネル展示を行います。テーマは、人口関連問題、リプロダクティブ・ヘルス、妊産婦の健康、HIV/エイズ、緊急人道支援を予定しています。
 お問い合わせ：国連人口基金 東京事務所
 TEL：03-5467-4684 FAX：03-5467-8556
 E-mail：tokyo.office@unfpa.or.jp

■「世界人口デー」特別シンポジウム

日程：2006年7月6日(木) 13:30～17:00 (13:00開場)
 場所：渋谷区神宮前5-53-70 UNハウス3階 ウ・タント国際会議場 参加費：無料
 内容：「65億人の世界と人口減少社会・日本」と題して、世界65億人の地球が抱えるさまざまな課題や、日本の超高齢化、人口減少の状況を分析し、世界の中の日本の役割について考えます。本シンポジウムでは、有森裕子国連人口基金親善大使が、今年2月にエチオピア訪問をした際に見て聞いて感じたことを報告します。池上清子国連人口基金東京事務所所長も、猪口邦子少子化・男女共同参画担当大臣の特別講演の進行役とパネリストを務めます。
 お申込み&お問い合わせ：財団法人ジョイセフ「世界人口デー」特別シンポジウム係
 TEL：03-3268-3150 FAX：03-3235-9776 E-mail:info2@joicfp.or.jp
 プログラム詳細：http://www.joicfp.or.jp/jpn/event/sympo_2006.shtmlをご覧ください。
 *マクロコスモス7月号の発刊が本シンポジウム直前となるため、申込みが間に合わない場合もあります。あらかじめご了承ください。



～讃岐まんてが通信～ 香川県青年国際交流機構 井川 美紀

香川に来られたら、まずはうどん!ですが、今回は、うどん以外のお勧め料理・お店をご紹介します。

まず、骨付鳥の「一鶴」。県外からもわざわざ食べに来られる方がいらっしゃるほどの人気です。鶏のもも肉(親とヒナの2種類あり)を丸ごと1本、特製スパイスをかけて焼き上げており、ちょっと辛めで、ビールとよく合います。油まみれになりながら、かぶりついて食べるとおいしいですよ!(女性はなかなか難しいですが...)

[<http://www.ikkaku.co.jp/index.html>]

それから、ラーメン屋の「はまんど」。数年前、何かの番組で「日本一うまいラーメン屋は香川にあった!」と言って紹介されていました。香川では、初代「うどん王」として知られる大将が、讃岐の手打ちラーメンを編み出しました。

おいしいラーメン屋がないと言われる香川の中で、異彩を放っています。

[<http://www81.tiki.ne.jp/~staka/rmori.htm>]

そして、餃子屋の「寺岡商店」。大阪の餃子スタジアムにも店舗を持ち、かつて、激うまグランプリ第1位になったこともあります。焼き餃子をすだち胡椒でいただくのですが、小さめなので、2皿くらいは女性でもべろっと平らげられます。

[<http://www.teraokagyo-za.com/index.htm>]

最後に、菓子工房の「ループ」。TVチャンピオンのケーキ職人選手権で2連覇した実力があります。香川県には、竹糖というサトウキビからできた「和三盆」というお砂糖があり、これを使った「和三盆ロール」が特に人気のようです。甘さ控えめでおいしいですよ!

[<http://www.e-low.com/index.html>]

香川の特産、香川らしい料理...という物ではありませんが、うどん以外で何か食べに行きたいなどと思われる方は、是非どうぞ!

お知らせ!

JYGC 「第19回(昭和60年度)青年の船」 20周年記念同窓会の御案内

「SHAKE HANDS 太平洋に永遠なる友情を!」を活動目標に掲げ、昭和61年1月東京晴海港を出港し、50日間にわたる「にっぽん丸」での航海と寄港地での船外活動を終え、南太平洋の荒波とハレー彗星に見送られ、3月14日、小雪舞う東京に戻ってから、早いもので20年がたちました。

参加された皆様方におかれましては、全国各地・各分野において御活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、下記のとおり同窓会を開催することになりましたので、御家族お誘い合わせの上、御参加くださいますよう御案内致します。

日時：平成18年10月21日(土)午後5時半～7時半
 場所：ホテル・センチュリー・サザンタワー21階パーク・ルーム
 〒151-8583 東京都渋谷区代々木2-2-1 電話:03-5354-0111
 JR新宿駅南口徒歩3分、都営地下鉄大江戸線「新宿駅」A1出口徒歩1分
 会費：1万円(高校生以下は割引あり)

連絡先：間根山泰治(090-1451-5532)、
 鈴木光雄(090-6013-2589)、
 織田哲弥(090-7644-5614)

※後日、往復はかきで連絡します。本誌が届いていない方の住所は把握しておりませんので、もし、そういう方を御存知でしたら、お知らせください。

平成18年度「ヤング・リーダーズ・フォーラム」 日本参加青年募集!

I. 概要

1. 目的

「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業によって招へいされる「世界青年の船」事業及び「東南アジア青年の船」事業の20か国の外国人既参加青年と共に、専門分野に分かれて討議を行い、それぞれの分野における各国の情報を交換すると共に、21世紀の各分野のあり方、青年リーダーとしての役割等を共有し、社会に積極的に貢献する事後活動の活性化及び持続させる具体的方策を見出すことを目的とする。

2. 主催

内閣府
(財)青少年国際交流推進センター

3. 日本青年の参加期間(ヤング・リーダーズ・フォーラム)

公式日程：平成18年10月13日(金)から
同年10月15日(日)までの2泊3日間

4. 会場

国立オリンピック記念青少年総合センター

5. 参加者

- ア. 日本参加青年 20名
イ. 外国参加青年 20か国40名
(ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、
インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、
マレーシア、ミャンマー連邦、フィリピン共和国、
シンガポール共和国、タイ王国、
ベトナム社会主義共和国、バーレーン王国、カナダ、
コスタリカ共和国、フィジー諸島共和国、
モーリシャス共和国、ニュージーランド、
スリランカ民主社会主義共和国、スウェーデン王国、
アラブ首長国連邦、ベネズエラ・ボリバル共和国)

6. 日本参加青年参加プログラム内容

| 月日(曜日) | 日 程 |
|----------------------|--|
| 10月6日(金) | 招へい外国青年オリエンテーション、開会式、歓迎レセプション ※ヤング・リーダーズ・フォーラムの日本参加青年は希望に応じて参加可 |
| 10月13日(金) ～15日(日) | 東京プログラム<日本参加青年公式参加期間> (ヤング・リーダーズ・フォーラム、グローバル・ユース・コンファレンス、評価会等) |

※「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業全体日程(予定)

10月5日 招へい青年到着/10月6日 オープニング・プログラム/10月7日～12日 地方プログラム
10月13日～15日 ヤング・リーダーズ・フォーラム、グローバル・ユース・コンファレンス/10月16日 招へい青年帰国

II. 概要

1. 日本参加青年の資格要件

日本参加青年の資格要件は次のとおりとする

- ア 内閣府(総理府・総務庁)青年国際交流事業の既参加青年であること
イ 22歳から39歳までの者であること(平成18年10月13日現在)
ウ 英語による日常会話の能力を有する者であること
エ 協調性に富み、事業の計画に従って規律ある団体行動ができる者であること
オ 日本の社会(例、政治・行政・法曹、経済・商業、科学技術、医療、農業、マス・メディア、教育、社会活動、青少年活動など)で活躍しているリーダー層の青年であること
特に以下の2コースのいずれかを専門としているか、深く興味を持っていること
①NPOマネジメント(組織の活性化)、
②社会貢献活動(地域への貢献)

※ 事業全体でのプログラムにおいて、この2コースをテーマとしたディスカッション・グループが設けられる予定。外国参加青年はテーマ別に各国1名ずつ出し2つのグループを構成する。日本参加青年はヤング・リーダーズ・フォーラムで専攻テーマに応じてそれぞれのグループに所属する。

※ 日本参加青年募集人員数は約20名とする。

※ 再参加は妨げるものではないが、新しい参加者を優先する。

2. 日本参加青年の活動として期待されている内容

- (1) ヤング・リーダーズ・フォーラムの選択コースのための準備
- (2) ヤング・リーダーズ・フォーラム開催中の、日本代表としての積極的な発言
- (3) ヤング・リーダーズ・フォーラム運営のための協力と、外国参加青年へのフォローアップ
- (4) 成果発表会で提言された活動に対しての事業終了後の実行協力

3. 参加費用

- (1) (財)青少年国際交流推進センターの負担する経費
プログラム参加費、宿泊及び食事代(2泊3日)
- ※ 東京都23区在住(在勤及び在学も含む)以外の参加者については規定に基づいた旅費をお支払いします
- ※ ボランティア保険料
- (2) 日本参加青年の負担する経費
期間中における疾病又は傷害の治療費用(ボラン

ティア保険の範囲をこえるもの)、旅行保険、小遣いその他の個人の用に必要な経費

4. 応募

- (1) 提出書類
 - ① 申込書(別紙2) ② 作文(800~1,000字程度)
テーマ:「希望するコースで取り組みたいこと」
 - (2) 募集締め切り 平成18年8月8日(火)消印有効
 - (3) 結果のお知らせ 平成18年8月下旬に御連絡します

5. 書類提出先及び問合せ先

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

東京海苔会館6階 (財)青少年国際交流推進センター

担当: 大橋玲子、本田温子

Phone: 03-3249-0767/ Fax: 03-3639-2436

Email: ren@iyeo.or.jp

※ 封筒に「ヤング・リーダーズ・フォーラム応募用紙在中」と明記すること

※ 本事業についてのwebサイトを御覧ください

<http://www.iyeo.or.jp/Ren/top.html>

「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業のご縁

第6回「世界青年の船」事業参加青年

第2回「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業参加青年 松井 恵一

「世界青年の船」事業の既参加青年だった私は、「東南アジア青年の船」事業の既参加青年と知り合う機会がなかったのですが、「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業(以下「ルネッサンス」事業)をきっかけに多くの友人ができ、さらに、フィリピン留学中にはフィリピン人の両親までできました!

第2回「ルネッサンス」事業(平成14年度)に参加した際、ミルユス・ツアソンさんと知り合いました。彼は私のフィリピン留学のために様々な手助けをしてくれ、2005年11月にフィリピンに到着した際にはイグナシオ・C・セラノさん(第27回「東南アジア青年の船」事業フィリピン共和国ナショナル・リーダー)(ボブシーさん)御夫妻を紹介してくれました。



▲セラノさん宅でのホームステイ

その後、学生ビザ取得のため、1週間ほどマニラに行くことになりましたが、ちょうどボブシーさんから「マニラに来るならぜひ我が家に滞在してください」と連絡がありました。「東南アジア青年の船」事業既参加青年のお宅を訪問するのは初めてで多少緊張しましたが、気さくでもてなし上手のご家族やお手伝いさんのおかげ

で、あっという間の1週間でした。滞在中には家族で教会、美しい山や海に行きました。私は昨年の春にカトリック教会に通いはじめ、洗礼の準備をしていましたが、この1週間にボブシーさん夫妻と様々なことを話し、これをきっかけにゴッド・ベアレンツ(代父、代母:洗礼に付添い、精神的な親として信仰の深まりを助けるひと)をお願いし、こうしてフィリピン人の両親ができました。

洗礼式はボブシーさん御夫妻やミンダナオのホームステイ先の家族、神父様や友人のおかげで大変すばらしい式となりました。これから4年間フィリピンの医学大学院で学ぶ際にも、こうした方々からも助けていただくこととなります。

さらに、「ルネッサンス」事業の同期であるフィリピン人のコリアド・ハイメさん(第26回「東南アジア青年の船」事業既参加青年)とも今回の留学をきっかけに再会しました。彼はフィリピンの多くの方を紹介してくれ、ルソン島のナガ市も案内してくれました。

「ルネッサンス」事業がとりもつ御縁に感謝し、私もお返しができるよう、内閣府青年国際交流事業の事後活動組織の橋渡し役になりたいと思います。



▲日本文化に関心を持つセラノさん一家

ジャワ島中部地震災害救援金募集のお願い! IYEO会長 田中 南欧子

IYEOは、平成18年5月27日に起きたジャワ島中部地震災害救援金を行うことにしました。日本赤十字社とお話した結果、一般募金受付は6月末で終了しますが、団体としてまとめて別途お渡しできるとのことですので、IYEOとして協力することを、以下の通り幹事会で決定しました。皆様、御協力をお願いします。

<振込先> 口座名称：日本青年国際交流機構 口座番号：郵便振替口座 00100-4-463830
 募金額：1,000円以上(備考欄に「ジャワ島中部地震」と記載) 募金受付期間：平成18年7月末まで
 <お問合せ先> IYEO副会長 大橋玲子 TEL:03-3249-0767 E-mail:hq@iyeo.or.jp

(財) 青少年国際交流推進センター職員紹介



スタッフ一同がんばっています。



**IYEO組織の充実と活動の活性化を図るための
財政基盤の確立を目指した寄付金の報告**

平成17年度は日本青年国際交流機構設立20周年にあたり、組織の充実を図りたく、マクロコスム66号や一部文書で会員の皆様に寄付のお願いを差し上げましたところ、多くの方の御理解を得、平成18年4月6日までに332件 4,010,216円の寄付をいただきました。

寄付の用途並びに活動内容については、改めて報告いたします。今回寄付を頂いた方のお名前をIYEOウェブサイトに掲載しました。既に御礼状(領収証)を送付し、3万円以上の寄付をされた方には記念品として「ターニング・ポイント」をお贈りしています。

詳細は、日本青年国際交流機構副会長大橋玲子 (ohashir@iyeo.or.jp) へお願いします。

お詫びと訂正

マクロコスム2006年5月号(vol.70)P12「平成18年度国際交流を考える集い(ブロック大会)」の北信越ブロック大会の会場(案)に誤記がありましたので、お詫びして訂正します。 <誤> 越会館→<正> パレプラン高志会館

今月号の表紙

第2回グローバル・フォト・コンテスト
 最優秀賞 Fruitful Smiles in Vietnam
 Lee Koon Seng SSEAYP32 (2005)、
 Singapore
 コンテストに御協力下さった皆様、心より御礼申し上げます。



また、まもなく第3回グローバル・フォト・コンテストが開始されます。テーマは「Smile and Laughter」(笑顔と笑い)です。詳細は追ってご連絡します。グローバル・フォト・プロジェクトチーム一同

編集後記

「お知らせ」欄に掲載する同窓会の案内記事を随時受け付けています。実施日の3か月前までにtel:03-3249-0767(担当:藤本)まで御一報ください。お待ちしております。(ふ)

MACROCOSM 7月号 Vol.71

2006年7月1日発行(隔月発行)
 編集 マクロコスム編集委員会
 発行 財団法人 青少年国際交流推進センター
 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
 2-35-14 東京海苔会館6階
 TEL:03-3249-0767 FAX:03-3639-2436
 e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp
 URL: http://www.centerye.org (CENTERYE)
 http://www.iyeo.or.jp (IYEO)

編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)
 日本青年国際交流機構(IYEO)

定価 220円(本体210円)
 印刷所 株式会社 長正社
 TEL:03-3531-1369 FAX:03-3531-3235

since
1884
Pioneer Of
Cruise



USPH=米国公衆衛生局は米国に入港する客船に対して毎年検査打ちで衛生検査を実施しています。にっぽん丸は、2000年から3回連続して100点満点中99点を取るなど、日本船では最高の評価を5年半の間受け続けています。



にっぽん丸



海から巡る世界の景色を、
香りと共に心に刻んでいただきたい。

にっぽん丸アロマセラピスト 石井 静枝

224号室。その部屋に足を踏み入れた途端、なんとも柔らかなラベンダーの香りに包まれた。にっぽん丸のアロマセラピスト石井静枝の職場だ。「船旅でのアロマは極上ですよ。自然に囲まれていると治癒力が全開になって、私が持っている技術をこえたところで人間本来の第六感が目覚めてくるんです」。人間の備え持つ第六感。それは時に不思議な記憶の掘り起こしにつながるのだという。「セラピーを終えてカーテンを開けたら、窓の外にはなんとも美しい南の島が。そんな体験をされたお客さまの記憶の中には、香りも一緒に刻まれるのです。ですので、そのお客さまが旅を終え、記念写真で同じ景色を目にした時、香りが一緒に蘇ってくる…なんだかロマンチックなお話しですよ」。そう、にっぽん丸でのアロマセラピーは、その場限りの癒しの手段ではないのだ。「この船は、世界の各地を巡りますよね。そんな時、その土地それぞれの景色を、それぞれの香りと共に記憶できたら素敵だと思いませんか？」と優しく微笑む石井。この朗らかな笑顔もきっと、多くのお客さまの記憶の中に、ラベンダーの香りと共に刻まれているに違いない。



もてなしにも、品質があります。にっぽん丸の船旅

瀬戸内海のおびりワンナイトクルーズ **神戸発着**

神戸→(瀬戸内海周遊)→神戸
2006年7月17日(月・祝)~7月18日(火) 46,000円

夏休み 神津島・新宮クルーズ

横浜→神津島→新宮→横浜
2006年8月25日(金)~8月28日(月) 135,000円

八丈島クルーズ **名古屋発着**

名古屋→八丈島→名古屋
2006年7月19日(水)~7月21日(金) 90,000円

横浜/小樽クルーズ **横浜発小樽着**

横浜→小樽
2006年8月30日(水)~9月1日(金) 64,000円

済州島と海峽花火・阿波踊りクルーズ。

横浜→神戸→済州島→下関→小松島→横浜
2006年8月9日(水)~8月16日(水) 308,000円

南洋の楽園クルーズ。 **横浜発着37日間**

フィジー、タヒチ、ハワイなど太平洋の8つの島々を探訪
2007年5月9日(水)~6月14日(木) 980,000円

そのほかのクルーズもご用意しております。表示の代金はステートルームC1室を2名でご利用の場合の大人お一人様・国内クルーズは消費税込の旅行代金です。*: 各種のコースがございます。



商船三井客船

〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13
三井ビル5F
MOPASは商船三井客船の登録です。

お問い合わせは、各クルーズ取扱旅行会社
またはMOPASクルーズデスクへ。

クルーズデスクフリーダイヤル
☎0120-791-211

<http://www.mopas.co.jp>

創立50周年特別企画

2006年 7月22日(土) ~ 7月29日(土)
8日間 横浜 発着

にっぽん丸 北紀行クルーズ

— 世界自然遺産「知床」／白神山地、人気の利尻をめぐる —

◆ スケジュール〈概略〉・旅行代金 ◆

| 月日 | 都市 | スケジュール〈概要〉 | 食事 |
|------------|-----|---|-----|
| 1 7/22 (土) | 横浜 | 乗船・出港(12:00出発) | 昼夕 |
| 2 7/23 (日) | | 太平洋上の航海 ●「ロザンナ・ディナー&ショー」 ロザンナ監修ディナーとカンツォーネの夕べ | 朝昼夕 |
| 3 7/24 (月) | 利尻 | 利尻へ入港 ●知床自然解説員による「知床自然レクチャー」 | 朝昼夕 |
| 4 7/25 (火) | 知床 | 知床へ入港 【各種オプションツアーをご用意しております】 | 朝昼夕 |
| 5 7/26 (水) | | オホーツク海～日本海 航海日 【各種船内イベントをお楽しみください】 | 朝昼夕 |
| 6 7/27 (木) | 鯉ヶ沢 | 白神山地の玄関口・鯉ヶ沢入港 ●幽玄の世界から笑いの世界へ誘う「狂言」をお楽しみいただけます。 | 朝昼夕 |
| 7 7/28 (金) | | 最後の航海日(日本海～津軽海峡～太平洋) 【船内イベントを存分にお楽しみください】 | 朝昼夕 |
| 8 7/29 (土) | 横浜 | 入港(10:00頃到着) | 朝 |

☆添乗員:同行いたします

☆最少催行人員:100名

■旅行代金(大人お一人様)横浜発着

| 客室タイプ | ☆ | 3人利用代金 | 2人利用代金 |
|------------------------------------|---|----------|------------|
| ステートルームC(14m ²) 1階丸窓 | 2 | 283,000円 | 323,000円 |
| ステートルームB(14m ²) 2・3階角窓 | 3 | 309,000円 | 353,000円 |
| ステートルームA(14m ²) 4階角窓 | 4 | 344,000円 | 393,000円 |
| デラックスルーム(19m ²) 5階 | 5 | — | 693,000円 |
| スイートルーム(40m ²) 5階 | 6 | — | 1,113,000円 |

●ロザンナさんの講演“スローライフの提案”

歌手として、またイタリア料理専門家として活躍中のロザンナさんが「スローフードなイタリア食文化、愛と歌」について語ります。

●ロザンナさん監修“ロザンナ・ディナー&ショー”

ロザンナさんが監修したオリジナルディナー、そして優雅なカンツォーネの夕べと軽快なトークをお楽しみいただける「ロザンナ・ディナー&ショー」を開催。

●自然解説員による、船上レクチャー

色とりどりの花が迎える「利尻」、動植物に出会える雄大な「知床」、世界最大級のブナ原生林が残る「白神山地」。知床自然解説員が乗船、寄港地オプションツアーのご案内や、寄港前には船上レクチャーも行ない、地球の息吹をより深くご体感いただけます。

●イベント【狂言】

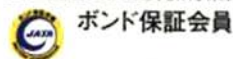
室町時代に生まれた狂言は、現代に残る最古のセリフ劇であり喜劇。今も昔も変わらない日本人の普遍的な「おかしさ」で見る人の心を和ませます。京都・茂山千五郎家による笑いを体感してください。

【旅行企画・実施】

トップツアー株式会社

国内旅行部 中央国内旅行センター
〒153-8550 東京都目黒区東山3-8-1

国土交通大臣登録旅行業第38号



ボンド保証会員

(社)日本旅行業協会正会員



旅行業公正取引

協議会会員

詳しい旅行条件を記載したパンフレットをお渡しいたしますので、担当までお問い合わせ下さい。

■お問合せ、お申し込みは

トップツアー株式会社 新宿支店

総合旅行業務取扱管理者 伊藤 浩

営業1課にっぽん丸クルーズ担当係

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-20-2

TEL. 03-3340-0600

FAX. 03-3340-0628

平日 9:30~18:30 土曜・日曜・祝日休業